

佐藤委員（広志会）

令和5年3月2日

教育長答弁実録

（教育委員会）

（問）学校現場への対応について

まず、学校図書館リニューアルをするためのアドバイザーとして、なぜ赤木かん子氏を選び続けているのか。調査では違法性はないという見解であったが、違法でなければいいという話ではない。現場から批判や不満の声が出ていることを知っている上で、赤木氏を呼び続ける理由は何か、教育長に伺う。

（答）

本県の図書館の課題を改善し、目指す図書館教育を推進していくためには、学校図書館に必要な資料を残して不要なものを捨てたり、最新の情報に応じた資料を常に更新したりすることや、子供たちの興味・関心を引くデザイン性の高い空間づくりを行うなど、学校図書館資料の充実及び環境整備の一体的な改善が必要だと思ったからでございます。

なお、赤木氏以外にも、4名の候補者としてあげておりました。この候補者というのは、大学教授が2名、児童文学評論家、公益社団法人関係者が1名いましたけれども、実質的なアドバイスをしていただく、それから実質的な、どれを捨てて、どれを残せばいいのかということも含めて、あとデザインの的なところもアドバイスをしてくれるのが赤木氏だということで、赤木氏にはこだわっておりませんでしたけれども、今回、アドバイザーとして起用をいたしております。